

## 会員の声

# 環境保全・修復とジオテキスタイル

帝人株式会社 内川 哲 茂

はじめまして。繊維メーカーの帝人㈱の内川と申します。

ファッションテキスタイルに興味を持ち、アパレルと繊維メーカーの違いもよくわからないままに当社に入社し、はや11年が経過いたしました。長靴にヘルメット…、そんな仕事に就こうとは…入社当時は想像もしなかった今日この頃です。そんな私がジオテキスタイルと出会ったのは、今から6年前になります。ちょうど兵庫県南部地震のあった頃です。災害復旧に直接関る仕事をしたわけではありませんが、やりがいのある仕事についたな、と感激したのを今でも昨日の事のように思い出します。

さて、会員の声というコーナー、何を書いてよいのやらと悩みましたが、最近、私がジオテキスタイル用の繊維素材や加工技術を開発するにあたり、少々考えている事をご紹介しますと思います。

昭和の高度経済成長期からバブル崩壊までの期間は「便利さを追求する」時代でした。この流れに乗って、高性能繊維の利用も拡大してきましたし、ジオテキスタイルも大きく発展してきました。しかしなが、社会は、今、限りある資源の有効利用と環境に優しい材料展開へと向かっているように感じます。「造って、使って、捨てる」時代は終わったのではないのでしょうか。今後の“高性能な繊維”、それは、これまで言われてきた機能(例えば高強度・高弾性率など)繊維ではなく、“環境に優しい繊維”だと確信しています。

弊社では、その一つの方向として、高強度で土木・建築材料としても利用可能な PET ボトルリサイクル繊維「エコペット<sup>TM</sup>」の展開をスタートさせました。この繊維を利用した製品の、コンクリートを使用しない植生護岸への適用事例を写真(ボトルユニット 前田工織㈱共同)に示しました。リサイクル繊維を高性能繊維と呼ぶ事は、いささか問題かもしれませんが、環境に優しい技術の開発とその応用こそ、今後の我々の進むべきであると考えております。今後も、“次なる環境にやさしい繊維”による土木・建築資材の開発を目指し、がんばっていきたく思います。

本学会の発展、そして本学会からの環境保全・修復技術の発信に、少しでも寄与できればと考えております。今後とも、よろしく願いいたします。

